

「 「油断」 と向き合う 」

秋田県 湯沢市立稲川中学校 3年 ^{たかはし}高橋 ^{かのん}奏音

「油断」の語源を知って驚いた。この言葉は、インドの王様が、油をこぼした家来を罰として処刑したエピソードからきているそうだ。それだけのことで命を失うなんてーと思うが、その「油断」は今の社会でもあてはまることがある。それは土砂災害である。

今年、日本は大雨による被災が多かった。特に7月の豪雨による九州地方の被害は大きかった。テレビで被災地の様子が報道されたが、土石流の爪痕はかなり深いものであった。

また、最近では、台風十号による土石流も発生した。九州地方は、昨年度も大雨による被害があった地域なので、被災地の方々はどんなに怖く、苦しい思いをしたのだろう。心底、気の毒に思う。さらに今年度は、コロナウィルスの関係で、ボランティアを募ることも難しいそうだ。同じ日本に住んでいながら被災者の皆さんに何もできない自分がとても情けなく、悔しい。

テレビで被災地のニュースを見ていると、車で逃げたのにも関わらず、土石流に巻きこまれた家族のことが報道されていた。解説員の話によると、土石流の速さはものすごいそうである。車のスピードでも逃げ切ることができない土石流に、もし自分が遭遇したらどうしたらよいのだろうかー私は息をのんだ。

「垂直避難をして下さい。」

その時、解説員がそうコメントをした。土石流を背後に逃げるのはとても危険なことだそうである。解説員の掲げるイラストを見ながら私は「なるほど」と思った。

この時、私は土石流から避難する方法を知った。もちろん、それだけで災害から完全に逃れることはできないと思う。しかし、知識があるのと無いのでは、違うと思う。知識がある方が、災害のリスクを減らすことができるし、命を守ることに通じる。

私は、はっとした。今まで自分は、災害について考えたことがあるだろうか。自分だけは災害に遭遇しない、災害とは他の地区でおきる出来事ーそんなふうに甘い認識で毎日過ごしていたように思う。

実際、自分の住んでいる地域も土砂災害が起きるリスクがある。それというのも、土砂災害危険箇所を印した立看板が近所に立てられているからだ。そうした看板に対し、私は一つの風景として今まで見過してきた。

私は急に怖くなった。他にも自分の住んでいる地域で危険な箇所はないだろうかー。わらにもすがる思いで、試しにインターネットで検索してみた。すると、そこにはたくさんの箇所が土砂災害がおきる場所として挙げられていた。この時ほど、私は土砂災害が、決して他人事ではないことを実感できたことはない。

地名がたくさん表示された画面を見ながら私は考えた。もし、自分の地域で土石流が起きたらどうしたらよいのだろうかー。私はとにかく準備しなければいけない、と考えた。自分の命を、家族の命を守るため、自分自身で備えておく必要がある。

まずは家の近くの地形やハザードマップを確認することだ。そして、避難場所やそこまでの道のりを把握しておくことだ。あらかじめ知っておくことで、災害が起きた時に、慌てず、冷静に行動できるようにしたい。そして、その情報を家族で共有しておくことも大切だと思う。

また、それと同時に、普段から天気予報や注意報を見る習慣をつけることも大事だと思う。そして、それらの情報から自分で判断し、的確な避難行動をとるべきだ。

そして何よりも大切なのは、自分の命は自分で守る、という意識をもつことだ。災害被害をできるだけ小さくするには、そうした意識をみんなでもつことが大切だと言える。自然災害を止めることはできないから、その後のリカバリーをどうするのかに重きを置くようにすると、さらに良くなると思う。

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

日本では土砂災害が多い国だと言われている。最近6ヶ年の土砂災害による死者数及び行方不明者数は309人にもものぼる。これ以上、土砂災害による被害者を出さないためにも、私達一人ひとりが、災害について知り、その予防に努めていかなければいけないと言える。

また、私の住んでいる地域は少子高齢化が進み、もし災害等が起きたら、中高生の力も必要とされるだろう。

災害はいつ起きるのか誰にも予想できない。だからこそ「油断」して大切な命を奪われないよう、みんなで知恵を出し合い、協力しながら、自分達の命とそして笑顔を守っていきたい。